

あいのがぜ

vol.

20

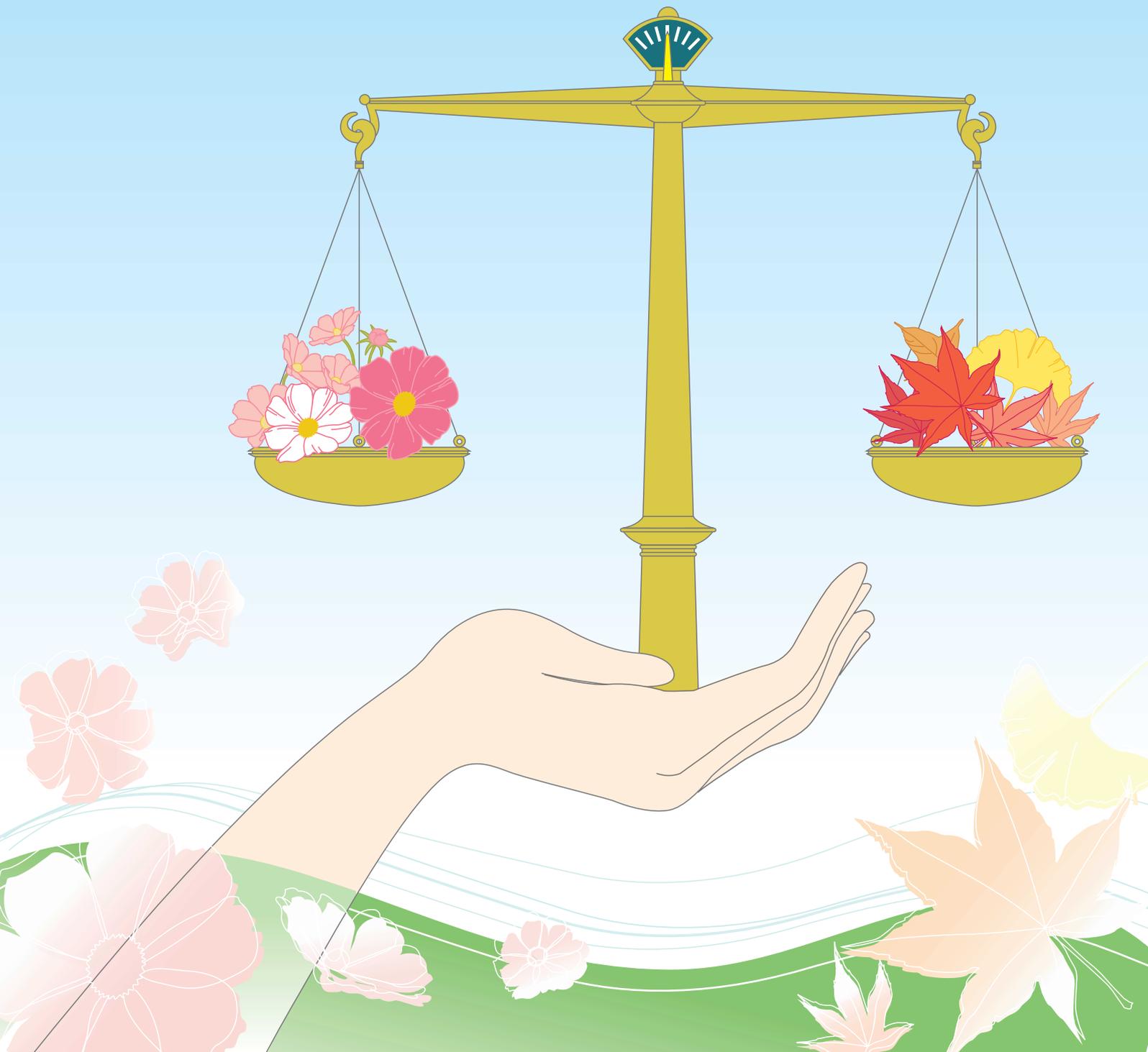
2005
秋号

巻頭インタビュー

相本 芳彦 氏 (北日本放送(株)報道制作局制作部専任部長
(兼)ラジオセンター専任部長)

座談会

～富山市における男女共同参画の
過去・現在・未来～



巻頭インタビュー



相

本

芳

彦

あimoto よしひこ

氏

9	月	に	男	女	共	同	参	画	推	進	セ	ン	タ	ー	に	お	い	て	
生	活	講	座	「	男	性	講	座	：	パ	パ	の	子	育	て	」	と	題	し
て	、	テ	レ	ビ	・	ラ	ジ	オ	で	ご	活	躍	中	の	相	本	芳	彦	さ
ん	に	よ	る	講	演	が	開	催	さ	れ	ま	し	た	。	9	年	前	に	愛
妻	を	亡	く	さ	れ	て	か	ら	、	父	親	一	人	で	3	人	の	子	ど
も	達	の	成	長	を	見	守	っ	て	お	ら	れ	ま	す					

講演から

パパの子育て

秘けつは、毎日の朝ごはんとお見送り

妻がなくなった時、我が家の子ども達は、長男が中学校1年生、長女が小学校4年生、次男が小学校2年生でした。3人とも、それぞれの個性をもっているため、それに応じてコミュニケーションを工夫しながらとっています。

今日まで意識してずっと続けてきたことが2つあります。一つは、朝ご飯を一緒に食べることです。基本的に、ご飯、味噌汁、2品程度のおかず、果物と、割としっかりした献立を用意し、食事の間にいろいろ話しながら子ども達の情報を得ます。もう一つは、3人が出かける時は玄関で見送ることです。これは、「いつも君たちのことを想っているよ。」という気持ちを伝えたいと考えて始めましたが、今では子ども達の間でも見送る癖がついているようです。

その他、約束事として1.挨拶をする、2.嘘をつかない、3.約束を守る等があります。これらを意識しながら、子ども達それぞれが互いに役割を担いながら助け合っています。親としては、手伝いたいところを我慢して、見ててあげる姿勢が大切だと思っています。

仕事と家事・育児を両立するコツは

仕事も家事も手を抜く。(笑)仕事と家事を完全にしようとしても無理なので、仕事0.75倍+家事0.75倍=1.5倍くらいでいいやという意識で取り組んでいます。仕事が忙しい時は、家事がおろそかになり、その分、子供達にがんばってもらうことになりませんが、逆に、比較的時間があるときは、手の込んだ料理を作ってあげたりして、大きなスパンで常にバランスを意識しています。あまり規則的に縛らず、できる時にするというスタンスで。人の倍は働けませんので、1.5倍働くことを心がけています。それを仕事と家事・育児と半々でバランスをとってこなしています。家事は子ども達にも年齢に応じてできる範囲でやってもらっています。

子育てに「男らしく、女らしく」という意識は

以前、長女に「女の子だから、これくらいできた方がいいだろう」と言ったことがありまして、その瞬間、「男も女も関係ないでしょ」と叱られてしまいました。

我が家では、男の方が台所によく立ちます。父親が台所に立っているのが普通の家庭で育っていますので、彼ら自身も何の抵抗もないようです。

今、みんな成長し、ある程度の役割分担が決まっていますが、「男だから、女だから」というわけではなく、できる者がするというスタンスですよ。

職場等での男女共同参画は

我が社には、子育て中の女性アナウンサーが何人か所属しています。彼女達の様子を見ると、夫や親族とうまく連携をとっていますね。(管理職という)私の立場上、みんながある程度無理をしながら勤務してもらって

いることもあり、例えば、子供が熱を出した、怪我をした時などは放送業務に支障がない限りは、臨機応変に対応してもらっています。仕事をしやすくするのが少なくとも管理職の仕事でもあり、日々の生活があつての仕事ですからね。優先してもらえるようにしています。アナウンサー間でもお互いに助け合う体制が自然とあるようです。また、我が社には女性管理職が1/3程度います。当たり前のことですが、男だから女だからではなく、能力のある者が適所についています。そういう意味では、非常に男女共同参画に理解のある会社といえますね。

男女共同参画のこれから

男女共同参画を阻む最大の要因は、女性自身の自主規制だったりします。年齢問わず、まだまだ慣習にとらわれている方が多いと感じます。まだまだできるのに、「女はこの辺で」という方がまだまだいらっしゃってもったいない。女性の皆さん、自分を信じてどんどん「参画」してください。

相本 芳彦 氏

1956年高岡市生まれ。79年に北日本放送株式会社入社。アナウンサーとして、「ビバクイズ」「相本・鍋田のスーパーサタデー」「アンタラッチャブル」等を担当。この間、NTV系列アナウンス大賞等各種表彰受賞。現在、報道制作局制作部専任部長(兼)ラジオセンター専任部長、そして「相本商店」等アナウンサーとしても活躍中。



座

談

会

富山市における



子どもたちを“一人の人間”として育てることが大切
PTA活動を通してお父さん方も地域・学校に関心を

てらだ ゆみこ

寺田 裕美子 氏（富山市PTA連絡協議会会長）



増えている女性起業家。社会がきっかけを与えるべき
出産・育児経験者のための適切な職場環境づくりを

むらた ひろし

村田 寛 氏（富山商工会議所青年部会長）

寺田 嶺 本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。『あいのかぜ第20号』は新富山市誕生後の第1号です。ここで一度、富山市における男女共同参画の現状について様々な角度から検証してみたいと思います。各分野でご活躍の皆さんの率直なご意見により、現実を見据えるとともに、新富山市一丸となって男女共同参画に取り組んでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

まず、ご家庭や身近なところでのご自身の男女共同参画の状況についてお伺いします。

木戸 私は平成14年度から蜷川校下の男女共同参画推進地域リーダーを務めておりますが、一番大切かつ難しいのは、地域住民の方々に男女共同参画についてきちんと知ってもらうことです。男女問わず自由に人生のよるこびを感じられる社会＝男女共同参画社会であることを、地域の身近なところから働きかけていきたいと思っています。

寺田 裕 私はPTA役員を務めて7年ほどになりますが、活動の中で“男女共同・平等”をとりわけ意識したことはありません。男女関係なく、それぞれの人がそれぞれの立場で、やれることをやっていくことが大切だと思っています。ですから、『初めての女性会長』ということもあまり意識していませんね。

村田 富山市には中小企業が多数あります。私のような経営者の立場からすれば、会社の規模・従業員数等からして、男女差だけで雇用する・しないという人事配を行うのは厳しいと感じます。個人の实力があるか否かが重要であり、男女差による規制は少ないと言えます。また、富山市には女性起業家が多く、『地域に貢献したい』と考えている女性が増えているのも事実です。

寺田 嶺 なるほど、地域・教育・企業それぞれの分野で、男女共同参画への取り組みは着

男女共同参画の

過去

現在

未来

男女問わず自由に人生のよろこびを感じられる社会を
男女共同参画で地域を活発に。地道な啓発活動が大切

きど かずいち
木戸 和一 氏 (富山市男女共同参画推進地域
リーダー連絡協議会副会長)



共同参画意識向上のための環境改善が行政の役割
あらゆる分野で男女共同参画を主軸に

てらだ みねこ
寺田 嶺子 氏 (富山市市民生活部参事
[男女参画・ボランティア課長])
行政代表/コーディネーター



実に進んでいるようです。富山市行政としても、各校区から選ばれた合計167名の男女共同参画推進地域リーダーの委嘱、『あいのかぜ』や小学生向け冊子を用いての啓発、出前講座や男女共同参画週間(毎年6月23日~29日)に併せての男女共同参画推進フォーラムの開催等、多角的に男女共同参画推進活動を行っております。

また、男女共同参画社会基本法が施行されて6年が経過しましたが、果たしてどのような成果が上がっているのか、もしくは改善点が指摘されているのか、気になるところです。

寺田裕 実際に学校では男女による垣根が徐々に取り払われてきていると感じます。保健体育や技術・家庭科の男女合同授業は、子ども達もとても楽しんでいるようです。女性の生徒会長や応援団長もいます。子どもたちの中には、『女のくせに』というような偏見はなく、みんなで彼女たちを盛り立てようと

いう雰囲気は自然に生まれているようです。「できる人」がやる」という考えが根付いてきているのではないのでしょうか。やはり、子どもたちを“一人の人間”として育てることが大切ではないでしょうか。

木戸 それは嬉しいことです。また、小学生向けの啓発リーフレットは必要だと思います。先日、ある保育園児が『青は男の色、赤は女の色』というようなことを言っているのを聞き、たいへんショックを受けました。子どもが無意識のうちにそのような考えを持ってしまうのは、そう考えている大人がいるからです。小さいうちに偏見を持たないように教えていくことが大切だと思います。

寺田裕 かえって、大人のほうが男女という区別が顕著かもしれませんね。というのもPTA活動の場合、町内や学校等地域密着の行事は女性中心でお父さん方男性陣の参加は消

極的なのですが、市や県といった大きい団体レベルになると圧倒的に男性役員が多くなります。これはなぜか？ひとつには、女性自身の潜在的意識の中に、『私は女だし、役員はちょっと...』という気持ちがあるのではないのでしょうか。また周囲に『女のくせに』という意識がまだ残っていることもあるかもしれませんが、地域によって差があるとは思いますが、こういう点ではまだまだ男女共同参画は進んでいないとも言えます。

木戸 地域による温度差があるのは確かかもしれませんが。町内単位から、女性も自分のアイデアをどんどん出して参画していくべきですね。話し合いの場が男性だけではおかしいじゃないですか。全体でのコミュニケーションが大事でしょう。

また、最近感じるのは、女性は仕事の中から喜びや楽しみを生み出す心のゆとりがあるのか、とても前向きなパワーを感じる方が多いのに、反面、男性は、家庭・職場・地域において義務感と切迫感に縛られ、日常に喜びを見出す暇もなく、精神的・肉体的に追い込まれている。過労死や自殺等を未然に防ぐためにも、一刻も早く男女共同参画社会を実現しなければと感じます。

村田 アメリカでは、女性も働ける企業しか生き残れないと言われていています。『女性の感性を受け入れるべき』という考えが当たり前になっているのです。日本は北欧はじめ西欧諸国と比べエンパワーメント指数が低いとの結果が出ていますが、富山市においては少しずつ改善されてきているというのが私の実感です。造園業・旅行業等、これまで女性の進出が限られがちだった業界で女性が増えてきていますし、我々が企画運営している「富山商工会議所青年部Y E Gフェア2005」(富山ブランドづくり)の応募者は8割が女性です。

また、今年の山王まつりでは“女みこし”がスタートし、たいへんな熱気でした。昭和55年に実験的に実施された時はもの珍しさが

先に立って浸透するに至らなかったことを考えれば、それだけ社会の男女意識が変わってきたということです。やはり、社会がきっかけを与えてあげることも必要です。

寺田嶺 女性に比べ、男性の共同参画意識が低い傾向にあるのかもしれませんが。しかし男性の場合、就労環境が大きく影響している側面があります。連日の残業や過酷な競争のさなか、地域や教育の場にまでは十分に目が向けられないという事情もあるのではないのでしょうか。このような社会環境を改善していくことも行政の重要な役割だろうと思います。

今後、男女共同参画を更に推進していくうえで何が大切なのか、また、男女共同参画は社会全体にどのような効果をもたらすと思われますか。

寺田裕 男性とりわけ父親の参画に関しては、PTA全体で協力してきました。代表的なものが“おやじの会”です。日頃の地域・学校活動に積極的に参加してもらうために立ち上げました。入学式の際、お父さん方に集まっていただき、その場でPTA活動への参加を呼びかけ、積極的にいろいろな係を担当してもらうようにしました。すると、だんだんと地域や学校行事に父親の姿が多く見られるようになりました。ぜひお父さん方には、もっと子ども達に関心をもっていただきたいです。授業参観や課外活動等を共に楽しんで関わってもらえたら、そしてPTA活動が、地域社会に目を向けていくきっかけになればよいと思います。このパワーを次へとつなげていくことが大切です。

木戸 やはり、地域を活発にするための男女共同参画でなければ。実際、男女共同参画の意識が浸透している地域は全体がいきいきと活気づいているように思えます。そのためにはまず、自分が生活している地域をよく知って活動していくことが大切です。これからも、啓発活動を地道に行っていきたいと思います。

村田 現在の就業構造では、女性の場合、育児休業後に元の仕事に復帰しにくいのが実情で、それまでの仕事をあきらめざるを得ない女性がたくさんいるのも事実かと思えます。それほど職場復帰には想像を絶するエネルギーがいるということです。今後は、在宅ワークシステムの構築等、出産・育児を経験した女性が仕事の面でも生きがいを見出せる環境づくりが必要です。そのためには、行政・経済・教育・地域を広い視野で捉え、全体で取

り組んでいかなければならないと思います。

寺田嶺 よりよい社会づくりのために、あらゆる分野で男女共同参画を軸にしていくことが重要ですね。そして、自分自身が意識して参画していくことが何より大切だと思います。

本日は貴重なご意見をうかがうことができ、たいへん有意義な座談会でした。皆さん、あらためて有難うございました。

(平成17年8月30日、富山市役所にて開催)



我が国の男女共同参画基本計画の改定について

お知らせ

わが国では、平成12年に「男女共同参画基本計画」を閣議決定し、総合的かつ計画的に男女共同参画社会の実現に向けた取組みが進められてきました。この基本計画は、11の重点目標、平成22年までを見通した施策の基本的方向、平成17年度末までに実施する具体的施策で構成されています。そして、今年7月25日に、これまでの取組みを評価・総括し、専門調査会における十数回にわたる討議及び全国5ヵ所計6回の地方公聴会の開催による意見募集を経て、男女共同参画社会基本法を踏まえた男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本的な方向について答申が出されました。

[答申の要点] 新しい男女共同参画基本計画で特に重点的に取り組むべきと考える事項等

2020年までに、社会のあらゆる分野において指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待し、各分野における取組みを促進する。

チャレンジしたい女性が、いつでも、どこでも、誰でもチャレンジできるよう、女性のチャレンジ支援策を更に推進する。

仕事と家庭・地域生活の両立支援策を推進するため、特に男性も含めた働き方の見直しを大幅かつ具体的に進める。

新たな取組みを必要とする分野(科学技術、防災・災害復興、地域おこし、まちづくり、観光、環境)における男女共同参画を推進する。

生涯を通じた健康の保持増進を図るにあたり、性差に応じた的確な医療である性差医療()を推進する。

()性差医療：1980年代以降、米国において様々な疾患の原因、治療法が男女で異なることが分かってきたことから始められた医療。

7月2日(土) 富山市民プラザ アンサンブルホールにて

富山市では、毎年6月23日から29日にかけての男女共同参画週間に併せて、男女共同参画推進フォーラムを開催し、広く市民の皆さんに男女が共に輝いて生きる男女共同参画社会の実現を呼びかけています。今年度は、女性と仕事の未来館館長、そして弁護士として39年のキャリアを持つ渥美雅子氏を講師に迎えて「新しい時代をつくる力」と題した講演を、そして、講師・森市長、さたけ産婦人科の佐竹院長（コーディネーター）による鼎談が行われました。

講演において渥美氏は、ご自身が弁護士となって初めて所属した事務所でのセクハラ体験から、その後に声をかけてくれた大学の先輩弁護士のお話を通じて、女性が職場で活躍する上でのメンター（働く女性の相談役や機会を与える役割をもつ上司・先輩）の重要性等について説明されました。

また鼎談では、佐竹コーディネーターによるご自身の体験を交えた理解しやすい進行の下、渥美氏からは、地域を巻き込んでの子育ての楽しさ、女性と仕事の未来館館長として日頃から感じていらっしゃる職場における女性労働力の軽視の現状や、逆にこの不景気の時代にあって女性の能力を活かして成功を収めている企業の例などのお話を伺いました。また森市長からは、実生活での家事や子育てにおける参画の様子、夫婦間で互いを人生のパートナーとして認識し、互いの意見を尊重して意思決定していく家庭のあり方の大切さなど大変貴重なご意見を伺うことができ、新市としてめざしていくべき男女共同参画社会の将来像を、参加者自身も考える有意義な時間となりました。



編集後記

今号の巻頭インタビューおよび座談会につきまして、快くご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。今号では、新「富山市」となった記念の年に、これまでの男女共同参画に関する取り組み等を振り返ってみて、私たちの生活において男女共同参画がどのくらい浸透しているか、そしてこれからどうあるべきかを皆様にお伝えできればという思いで編集いたしました。

これから2年間計4号の編集に携わらせていただきますのでよろしくお願いいたします。

編集委員 麻井、北川、島林

タイトルの「あいのかぜ」は、「私（英語でI）」、「あいの風（富山弁で北東からの涼しい風）」、「愛の風」を表しています。表紙のイラストは、YUKIKOさん（（有）プランニング・エー）の作品です。

編集・発行

富山市民生活部男女参画・ボランティア課
〒930-8510 富山市新桜町7-38
TEL. 076-443-2051 FAX. 076-443-2176
E-Mail danjyo-volun@city.toyama.lg.jp
「あいのかぜ」へのご意見・ご感想をお待ちしております。

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。